

第三者評価結果入力シート（児童養護施設）

種別	児童養護施設
----	--------

①第三者評価機関名

社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会

②評価調査者研修修了番号

SK2021211
SK18249

③施設名等

名称：	つつじが丘学舎
施設長氏名：	前田 哲也
定員：	45 名
所在地(都道府県)：	和歌山県
所在地(市町村以下)：	和歌山市つつじが丘7丁目2-1
T E L：	073-480-1043
U R L：	http://www.torafusugakuen.jp
【施設の概要】	
開設年月日	1962/6/28
経営法人・設置主体（法人名等）：	社会福祉法人 虎伏学園
職員数 常勤職員：	40 名
職員数 非常勤職員：	8 名
有資格職員の名称（ア）	社会福祉士
上記有資格職員の人数：	3 名
有資格職員の名称（イ）	精神保健福祉士
上記有資格職員の人数：	1 名
有資格職員の名称（ウ）	保育士
上記有資格職員の人数：	14 名
有資格職員の名称（エ）	臨床心理士
上記有資格職員の人数：	2 名
有資格職員の名称（オ）	栄養士
上記有資格職員の人数：	1 名
有資格職員の名称（カ）	看護師
上記有資格職員の人数：	1 名
施設設備の概要（ア）居室数：	本体（4）8人 居室7、リビング他・分園（2）7人居室6リビング他
施設設備の概要（イ）設備等：	小規模グループケア（6つの家）
施設設備の概要（ウ）：	
施設設備の概要（エ）：	

④理念・基本方針

<p>・理念：わたしたちは、すべての生命の尊厳を基軸に子ども一人ひとりの思いに寄り添い、人と人との関わりを大切に社会性を養い「生きる力」を育みます。</p> <p>・基本方針：平成31年度から6つの家からなる小規模グループケアという家庭的で落ち着いた生活空間の中で大切にされる体験を提供し、自分の「居場所」を確立することで、子どもたちが適切な愛着関係を築くとともに心身を育み、生活習慣の確立を図る。社会的自立のために、発達段階に応じた体験を通して、さまざまな面で支援し、関係機関とも連携し、きめ細かな養育を行う。</p>
--

⑤施設の特徴的な取組

<p>・個別的关系を重視し、基本的な生活習慣の確立をはかる。・小規模化に伴い、孤立化や密室化が考えられるので、職員間の連絡、連携等を密にしていきたい。・施設の敷地内に、四季の樹木や草花を植栽し、心を癒やすとともに豊かな人間性を養う。・社会的自立に向けて、発達段階に応じた体験を通じて、自立に向けて支援する。</p>

⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間（ア）契約日（開始日）	2022/10/11
評価実施期間（イ）評価結果確定日	2023/2/22
前回の受審時期（評価結果確定年度）	平成30年度（和暦）

⑦総評

○特に評価が高い点

1. 長期計画に基づき6つのホームからなる小規模グループケアの家庭的で落ち着いた生活空間の中で居場所、生活習慣等の確立を図り、様々な面で子どもに寄り添い、きめ細かな養育・支援に取り組まれている。又、更なる福祉サービスの質の向上に向け、小規模施設を1カ所設置し定員8名を6名に減らす等、高機能、多機能化した支援に努める等前向きな取組姿勢が読み取れる。
2. 現場重視の養育・支援で風通しの良い施設運営や小規模ホームの運営から、各ホームの孤立化防止の面でも、職員間で定期的に話し合い連携を密にした取組ができています。
3. 施設長の長年の職務経験を活かしリーダーシップの基、小規模グループケアの中で子どもの特性を把握し、個性を大切に将来の自立に向けた養育・支援に努めている。
4. 令和4年度から臨床心理士1名を非常勤から正規職員として採用し、地域の子育て支援や里親支援専門相談員などと協力の基、週末里親などの開拓、地域の子育て家庭の相談援助等々、公益的な取組についても具体的な取組内容となっており大いに期待できる。

○改善が求められる点

1. 行事計画については、その都度、周知、説明されているが事業計画の主な内容については周知、説明されていない。今後、事業計画そのものを配布する必要はなく、主な内容を簡潔に纏めたもので、理解し易い資料の作成や配布、掲示などの工夫を望みたい。
2. 職員の質の向上に向けた取組として、階層別の外部研修の受講や、理事長、施設長との面接を行い、その中で職員の目標を把握するように努めている。今後、職員一人ひとりの育成に向けた取組は、教育、研修機能を有するのみならず職員のモチベーションを高めるための取組でもあり、目標管理に関する仕組みづくり等の整備を望みたい。
3. 現場重視の養育・支援は重要であることは理解できるが、支援のスキルアップ、統一した支援の実施等の観点から記録等の整備に工夫改善を望みたい。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

第三者評価の受審を重ねる中、記録のあり方や種々のマニュアルなど形として残すことの大切さがわかり、不十分な点を少しずつ改善し、運営や書類の整備ができてきたと感じます。また、地域や保護者に情報開示していくことについて、むずかしさも感じましたが、なんらかの方法で改善し、職員の研修なども増やし、児童の生活や職員の資質の向上に活かされるような取り組みをしていきたいと思っております。

⑨第三者評価結果（別紙）

（別紙）

第三者評価結果（児童養護施設）

共通評価基準（45項目） I 養育・支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。	第三者評価結果
① 1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a
<input type="checkbox"/> 理念、基本方針が法人、施設内の文書や広報媒体（パンフレット、ホームページ等）に記載されている。	○
<input type="checkbox"/> 理念は、法人、施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人、施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。	○
<input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。	○
<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。	○
<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。	○
<input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。	○
【コメント】 施設としての理念・基本方針は管理規程や施設入所にあたって等の中で明文化され、中・長期計画の中でも高機能、多機能化等施設として目指すべき支援の方向性等を読取ることが出来る。又、職員への周知は定例的な職員会議等の機会を通じ周知に努められ、子どもや保護者には入所のしおり等で周知に努められている。	

2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	第三者評価結果
① 2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	b

<input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。	○
<input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。	○
<input type="checkbox"/> 子どもの数・子ども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、施設(法人)が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。	
<input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。	○

【コメント】

施設長は社会的福祉事業全体の動向等把握され、中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。今後、施設が位置する地域での福祉に対する養育・支援のニーズ等需要動向を把握し事業の将来性や継続性を見通しながら更なる養育・支援の質の向上を期待したい。

②	3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	a
	<input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	○

【コメント】

中・長期計画に基づき、小規模グループケアの推進により、家庭的で落ち着いた生活空間の中で健全な心身の発達、愛着、信頼関係の形成を図る等の取組ができています。更に、小規模化、かつ地域分散化に向け令和6年度末までにとり進められており、高機能、多機能化した支援の実現に向けた取組が行われている。

3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	第三者 評価結果	
①	4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	a
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。	○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。	○

【コメント】

国が推奨する小規模グループケア化に対し、6つのホームをスタートさせ家庭的で落ち着いた生活空間の中で、自分の居場所を確立する等、施設としての使命や考え方が明確に反映されており、様々な面できめ細かな支援に努めている。

②	5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	a
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画(事業計画と収支予算)に、中・長期計画(中・長期の事業計画と中・長期の収支計画)の内容が反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画は、実行可能な具体的な内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	○

【コメント】

基本方針に基づき、重要目標4項目、実施計画17項目と中・長期計画を基に令和4年度から臨床心理士を非常勤から正規職員として採用し、ケアワーカーと共に親支援プログラム等を通じ、地域の子育て支援や里親支援専門相談員などと協力のもと、週末里親などの開拓等々、具体的な取組内容となっている事を読み取ることができ、大いに期待が持てる。

(2) 事業計画が適切に策定されている。

①	6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	a
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)されており、理解を促すための取組を行っている。	○

【コメント】

事業計画の策定にあたっては、職員等参画の基で実施状況の把握や職員の振り返りと、子どもの意向など年度当初3月に把握する中で策定されている。又、職員に対する周知については職員会議等で理解の徹底に努めている。

②	7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	c
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすいような工夫を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	

【コメント】

行事計画はその都度伝えているが、事業計画の主な内容については周知、説明がされていない。今後、事業計画そのものを配布する必要なく、主な内容を簡潔にまとめたもので、理解しやすい資料の作成や配布、掲示などの工夫を望みたい。

4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。

①	8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	第三者 評価結果 b
	<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容について組織的に評価(C:Check)を行う体制が整備されている。	
	<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	○

【コメント】

自己評価や第三者評価の結果を基に組織的、継続的に養育・支援の質の向上に取組む基礎となる体制の整備を望みたい。

②	9 評価結果にもとづき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	b
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	

<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

評価結果により取組むべき課題について、職員間で共有化は図られている。第三者評価も今回で4回目の受審となり、毎年自己評価も全職員で実施し各ホームのリーダー及び施設長の基で評価、レベル合わせが行われている。今後、評価結果を分析した結果や課題について、改善計画の文書化及び実施や見直しを行うことを期待したい。

II 施設の運営管理

1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。	第三者 評価結果
① 10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a
<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(事故、災害等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	<input type="radio"/>

【コメント】

施設長は自らの役割と責任を事務文書規程で明確にし、職員会議等で周知し施設内での信頼関係のもとにリーダーシップを発揮している。又、より家庭的養護の推進を図るために施設としての方向性をしっかりと明示し、質の高い施設運営に取り組んでいる。更に、事故災害等の有事における施設長不在時の権限委任等を含め事務文書規程に明文化されている。

② 11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a
<input type="checkbox"/> 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

施設長は順守すべき法令など、多面的な視点で把握し、必要に応じて職員に資料を用いて職員会議等を通じて周知するなどの対応ができています。

(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。

① 12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	a
<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	<input type="radio"/>

<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。	○
(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	○

【コメント】

施設長は長年児童相談所等での職務経験を活かし、養育・支援の向上について年1回全職員と面接を行い、職員の思いや、子ども達の満足度など各ホーム毎に意見を自由に聴く中で、児童の処遇向上に意欲的に取り組んでいる。

②	13 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○

【コメント】

施設長は福祉サービスの質の向上の取組として、風通しの良い施設運営にも取組、理念や基本方針の実現に向けて、総括主任等との協議やリーダー会議等を実施している。又、リーダーとは2カ月に1回話し合いの機会を持ち、現場の動性が実効性の高い運営に繋がるように環境整備を積極的に取り組んでいる。

2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。	第三者 評価結果	
①	14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	a
	<input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。	○
	<input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。	○
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。	○

【コメント】

理念・基本方針や事業計画を実現するために必要な福祉人材の確保、育成に向けた取組ができています。一例として虐待を受けた子ども等に対するカウンセリングやプレイセラピー、地域の親支援等のため非常勤の臨床心理士を正規職員として採用する等、福祉サービスの質の向上を目指した人事管理体制が整備されています。

②	15 総合的な人事管理が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にし、職員自らが将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みができています。	
	<input type="checkbox"/> 人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されています。	
	<input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価しています。	
	<input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っています。	○
	<input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施しています。	○

【コメント】

福祉施設での人事考課は難しい中、定期的に理事長と施設長が職員と面談を実施し、施設長と主任との間で協議等を行い職員の評価等を行っている。今後、人事考課は難しい面は理解できるが人事管理についてトータルマネジメントが求められているため、客観的な評価に繋げるために総合的な人事管理に関する仕組み、規程等の策定を望みたい。

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

①	16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような仕組みの工夫をしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。	
	<input type="checkbox"/> 福祉人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

養育・支援の内容を充実させるために職員が仕事に対して意欲的に臨めるような環境づくりのため、風通しが良く働きやすい職場づくり等を重要と捉え、定期的な個別面接や聴取等制度として確立した取組ができている。今後、就業状況のデータ収集に基づいた改善策について計画に反映し実行に繋げる取組を期待したい。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	c
	<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	
	<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標(目標項目、目標水準、目標期限)が明確かつ適切に設定されている。	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	

【コメント】

職員の質の向上に向けた取組として階層別の外部研修の受講や理事長、施設長との面接を行い、その中で職員の目標を把握するように努めている。今後、職員一人ひとりの育成に向けた取組は、職員の教育、研修機能を有するのみならず、職員のモチベーションを高めるための取組でもあり、目標管理に関する仕組みづくり等の整備を望みたい。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	
	<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	

【コメント】

策定された教育、研修計画に基づき研修が実施されている。今後、教育、研修成果等の評価、分析を行い、その結果を踏まえて次の教育、研修計画の策定に反映することを期待したい。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修等の機会が確保されている。	a
	<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	<input type="radio"/>
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	<input type="radio"/>

【コメント】

職員一人ひとりの教育、研修について、施設内研修や外部研修などに積極的に参加する機会をつくっており、結果については職員会議等で共有するなど適切に実施されている。今後、小規模化や地域分散化に伴い、施設本体と各拠点等との連携、調整が重要になるため、施設としてスーパービジョンの体制と、更なる充実に向けた取組を期待したい。

(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

①	20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	b
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成に関する基本姿勢を明文化している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援の専門職の研修・育成についてのマニュアルが整備されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

実習生の受入は行われており、保育実習のプログラムも整備されている。今後、福祉の人材を育成すること、又、養育、支援に関わる専門職の研修・育成への協力は、施設の社会的責務の一つでもあり、効果的な研修・育成や受入が行われるためにも、実習生に関わる専門職を育成する体制の整備を期待したい。

3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。

第三者
評価結果

①	21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人、施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公開している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公開している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人、施設の実存意義や役割を明確にするように努めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	<input type="radio"/>

【コメント】

理念・基本方針等は施設のパンフレットやホームページで公開しており、とらふすだよりの広報、機関誌等で施設長や職員の熱い思いなど、養育・支援に関する取組内容等特性を踏まえた中で情報提供に努めている。

②	22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等に関するルール、職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)の事業、財務について、外部の専門家による監査支援等を実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 外部の専門家による監査支援等の結果や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

税理士、社会保険労務士、顧問弁護士など外部の専門家に相談しながら、施設経営、運営の適正性を確保する取組ができています。

4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。 第三者
評価結果

①	23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの個別の状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。	<input type="checkbox"/>
	(児童養護施設) <input type="checkbox"/> 学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

コロナ禍発生までは施設内でのとらふす祭り、地域内のふれあい祭りで太鼓演奏等幅広く地域との交流が行われていた。本年度の事業計画の中でコロナ禍が落ち着いたら再開を明記しており、地域交流に関する課題の進展があることを望みたい。

②	24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	b
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化して取り組んでいる。	
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。	

【コメント】

コロナ禍発生までは、学習ボランティア、美容師、スポーツチャンバラ、ドッグセラピー等の受入により、子どもの育ちを共に支える様々な取組ができていたが、コロナ禍の中でボランティアの受入は殆どできていない。

(2) 関係機関との連携が確保されている。

①	25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a
---	---	---

<input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 地域に適切な関係機関・団体がない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	<input type="radio"/>

【コメント】

連携が必要な関係機関、団体等の社会資源を明示したリスト等が一覧表で整備され、関係機関等と共通問題に対し連携を密にし、子どもへの養育・支援の質の向上やその継続性等を確保するための取組ができている。

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

①	26 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が実施する事業や運営委員会の開催、関係機関・団体との連携、地域の各種会合への参加、地域住民との交流活動などを通じて、地域の福祉ニーズや生活課題等の把握に努めている。	<input type="radio"/>
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 施設のもつ機能を地域へ還元したり、地域の関係機関・団体との連携等を通して、地域の具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	
	(5種別共通) <input type="checkbox"/> 地域住民に対する相談事業などを通じて、多様な相談に応じる機能を有している。	

【コメント】

本年度の事業計画の中で、コロナ禍が落ち着いたら和歌山城内や磯ノ浦海水浴場の清掃活動をし、地域で虎伏太鼓を披露する等交流を深める内容が具体的に折り込まれており、且つ、職員も学校等の清掃活動に参加する等、地域との関係が適切に確保されている。今後、更なる積極的な取組を期待したい。

②	27 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野のみならず、地域コミュニティの活性化やまちづくりなどにも貢献している。	
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が有する養育・支援に関するノウハウや専門的な情報を、地域に還元する取組を積極的に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 地域の防災対策や、被災時における福祉的な支援を必要とする人びと、住民の安全・安心のための備えや支援の取組を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

公益的な支援事業として、臨床心理士1名を正規職員として採用し、地域の親支援等に様々なプログラムの実施、家庭支援専門相談員による地域の子育て家庭への援助、里親支援専門相談員による週末里親などの開拓等具体的な内容が明記され、地域の福祉ニーズに基づく公益的な事業の積極的な取組を期待したい。

Ⅲ 適切な養育・支援の実施

1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。	第三者 評価結果	
①	28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	<input type="radio"/>

<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する基本姿勢が、個々の支援の標準的な実施方法等に反映されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	

【コメント】

子どもを尊重した養育・支援について、携帯し易い全国で作成された倫理綱領を用いて職員への理解等実践するための取組ができている。又、基本的人権への理解を得るため、人権委員を設置し研修の報告会などを通じて、全職員が共通理解を持てる様努めている。

② 29 子どものプライバシー保護に配慮した養育・支援が行われている。	b
<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護について、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務等を明記した規程・マニュアル等が整備され、職員への研修によりその理解が図られている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいて、プライバシーに配慮した養育・支援が実施されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守れるよう設備等の工夫を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等にプライバシー保護に関する取組を周知している。	

【コメント】

子どものプライバシー保護に関する規程、マニュアルが整備されている。子ども間でプライバシー保護が不十分なため、無断で居室に入るなどの事象があり、都度指導されている。

(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。

① 30 子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	b
<input type="checkbox"/> 理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	

【コメント】

子どもや保護者等に対して、養育・支援の内容や施設の特性について、パンフレットやホームページ、施設入所に際しての書面、せいかつノート等作成し必要な情報を提供している。今後、情報提供内容について、子どもや保護者からの意見など必要に応じて聴取し、適宜見直しを行いより良い内容を目指すよう工夫を期待したい。

② 31 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	a
<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等が自らの状況を可能な限り認識し、施設が行う養育・支援についてできるだけ主体的に選択できるよう、よりわかりやすくなるような工夫や配慮をして説明している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	<input type="radio"/>

【コメント】

養育・支援の開始過程は児童相談所との連携のもと、せいかつノート等で解りやすい写真入りなどの資料で、子どもや保護者に説明するなどの対応ができています。

③	32 養育・支援の内容や措置変更、地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	○
	<input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	

【コメント】

児童相談所、学校等と連携を密にし養育・支援の継続性を確保するための対応に努めている。今後、子どもへの養育・支援の継続性を損なわない様な配慮の基に、引継ぎや申し送りの手順、文書の内容を定めておく等の整備を期待したい。

(3) 子どもの満足の向上に努めている。

第三者
評価結果

①	33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	

【コメント】

各家ごとに日々の雑談等行う中、把握に努め施設全体としての共通問題意識の基で、子どもの満足向上に繋げている。今後、更に新たな取組として、令和5年度から弁護士などの第三者委員が、子どもの意見を定期的に聴取する取組を行う予定となっており大いに期待したい。

(4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。

①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の実施等から生じた苦情に適切に対応することは責務であることを理解し、苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 苦情内容については、受付と解決を図った記録を適切に保管している。	
	<input type="checkbox"/> 苦情内容に関する検討内容や対応策、解決結果等については、子どもや保護者等に必ずフィードバックするとともに、苦情を申し出た子どもや保護者等のプライバシーに配慮したうえで、公開している。	
	<input type="checkbox"/> 苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	

【コメント】

苦情解決責任者、苦情受付担当者、第三者委員の設置等を配置し、施設内にも掲示する等の取組ができている。又、苦情等については各ホームの担当者が都度適宜に対応しており、こころのこえBOXも設置し職員間で共有のもと、適切な対応ができている。今後、施設として統一した記録、フィードバックの仕組みづくりの上、機能するよう期待したい。

②	35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に、その文書の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

相談しやすいスペースも確保し、こころのこえBOXも設置し、入所しおり等で周知に努め、複数の職員とも自由に接することができる等の体制のもとで、子どもの関わりに配慮した対応ができている。

③	36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 職員は、日々の養育・支援の実施において、子どもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	
	<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	

【コメント】

子どもの意見や要望などは、日常的な関わりの中で気軽に相談し易い環境をつくり把握に努めている。今後、対応マニュアル等の整備と養育・支援の更なる改善に繋げる取組を期待したい。

(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。

第三者
評価結果

①	37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	b
	<input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネジャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。	
	<input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	

【コメント】

危機管理マニュアルは明確にされ、事例の収集も行われているが、職員によってはヒヤリハットのとらえ方があいまいである。今後ヒヤリハット研修やリスクマネジメント研修などを行い、職員がヒヤリハットやリスクマネジメントを同じ目線で意識できるような取組を期待したい。

②	38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a
---	---	---

<input type="checkbox"/>	感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し職員に周知徹底するとともに、定期的に見直している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	感染症の予防策が適切に講じられている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	感染症が発生した場合には対応が適切に行われている。	<input type="radio"/>

【コメント】

看護師を中心に感染症の予防マニュアルが整備されていて、定期的に見直しが行われている。特に新型コロナウイルスに対しては、国や県から出されるガイドラインに基づきその都度見直しがされている。感染症が発生した場合の対応方法も明記され、それに基づいて適切な対応を行っている。

③	39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	b
<input type="checkbox"/>	災害時の対応体制が決められている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	立地条件等から災害の影響を把握し、発災時においても養育・支援を継続するために「事業継続計画」(BCP)を定め、必要な対策・訓練等を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	<input type="radio"/>

【コメント】

災害時の対応体制が決められているとともに備蓄もしっかり行われているが、災害時の「事業継続計画」が整備されていない。災害発生時においても変わりなく子供の支援が継続できる仕組みづくりと、対策、訓練の実施が望まれる。

2 養育・支援の質の確保

(1)	養育・支援の標準的な実施方法が確立している。	第三者 評価結果
①	40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。	b
<input type="checkbox"/>	標準的な実施方法が適切に文書化されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	標準的な実施方法には、子どもの尊重や権利擁護とともにプライバシーの保護に関わる姿勢が明示されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	<input type="radio"/>

【コメント】

養育支援について標準的な実施方法が文章化され、プライバシー保護に関わる姿勢が明示されている。今後それを確認するための仕組み作りが望まれる。

②	41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	b
<input type="checkbox"/>	養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に行われている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	<input type="radio"/>

【コメント】

標準的な実施方法について1年に1回、検証・見直しが行われ職員や本人から意見を聞き反映されているが、見直しの方法が定められていない。また個々で話し合ったり、会議等で話し合った内容が記録されていない。今後話し合いの方法や話し合われた内容を記録するとともに今後の支援に活かせるように工夫することが望まれる。

(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。

①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	b
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員(種別によっては施設以外の関係者も)が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズ、具体的な養育・支援の内容等が明示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員(種別によっては組織以外の関係者も)の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	
	<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。	○

【コメント】

アセスメント手法が確立され、自立支援計画には具体的な養育・支援内容が明示されている。また多職種との会議も行われているようであるが、内容が残されていない。今後会議等で検討した内容を明確にするとともに、手順を定めて実施していくことが望まれる。

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	

【コメント】

自立支援計画は半年に1回の見直しを定期的実施し、必要に応じて緊急時の見直しを行うことが求められている。また策定及び定期的な見直しについては、子供の同意を得るための手順、記録方法などを組織的に構築していく必要がある。PDCAサイクルを継続的に行い自立支援計画の評価・見直しを行うための仕組み作りが望まれる。

(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	○
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの回覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	○

【コメント】

子どもに対する養育支援の実施状況は、朝礼や職員会議で報告するなど職員間で情報の共有を図っている。職員間で記録の内容に差異が出ないように研修などを行い、職員指導の充実を図っていくことが望まれる。

②	45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	b
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、子どもや保護者等に説明している。	○

【コメント】

子どもの記録保管・保存・廃棄・情報の共有等に関する規定は、個人情報保護規定により定められており、記録管理責任者の下、職員は記録の管理に責任を持ち、情報の漏洩に対する対策も講じている。個人情報は子ども・保護者自身のことであるので今後説明していくことが望まれる。

内容評価基準（24項目）

A-1 子どもの権利擁護、最善の利益に向けた養育・支援

(1) 子どもの権利擁護	第三者 評価結果	
①	A1 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの権利擁護に関する取組が周知され、規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 権利擁護に関する取組について職員が具体的に検討する機会を定期的に設けている。	○
	<input type="checkbox"/> 権利侵害の防止と早期発見するための具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの思想・信教の自由について、最大限に配慮し保障している。	○

【コメント】

権利擁護に関するマニュアルが整備され、それに基づいた養育支援が行われている。権利擁護に関する研修には職員子ども共に参加している。権利擁護ノートを新しく作成し権利擁護に関して前向きな取組が行われている。

(2) 権利について理解を促す取組

①	A2 子どもに対し、自他の権利について正しい理解を促す取組を実施している。	a
	<input type="checkbox"/> 権利についての理解を深めるよう、年齢に配慮した説明を工夫し、日常生活を通して支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの年齢や状態に応じて、権利についての理解を深めるよう、権利ノートやそれに代わる資料等を使用して、生活の中で保障されるさまざまな権利についてわかりやすく説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員間で子どもの権利に関する学習機会を持っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりがかけがえのない大切な存在であり、自分を傷つけたりおとしめたりしてはならないこと、また、他人を傷つけたり脅かしたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。	○

年下の子どもや障がいのある子どもなど、弱い立場にある子どもに対して、思いやりの心をもって接するように支援している。

【コメント】

権利ノートや生活ノートを用いて職員・子どもがお互いに理解を深めるようにすると同時に、各小舎のリビングに分かり易く説明したポスターを張っている。発達障がいのある子が多いので暴れたり、怒ったりすることもあるが、それも一人ひとりの個性であることを伝えている。

(3) 生き立ちを振り返る取組

①	A3 子どもの発達状況に応じ、職員と一緒に生き立ちを振り返る取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの発達状況等に応じて、適切に事実を伝えようと努めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 事実を伝える場合には、個別の事情に応じて慎重に対応している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 事実を伝えた後、子どもの変容などを十分把握するとともに、適切なフォローを行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりに成長の記録(アルバム等)が用意され、空白が生じないように写真等の記録の収集・整理に努めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返り、子どもの生き立ちの整理に繋がっている。	<input type="radio"/>

【コメント】

児童相談所や保護者と相談しながら、子どもたちの個々の状況に応じて事実を伝える時期を配慮し伝えている。子どもたち本人の意思を確認しながら無理の無いような伝え方をし、伝えた後のフォローは十分気を付けながら行っている。

(4) 被措置児童等虐待の防止等

①	A4 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 体罰や不適切なかかわり(暴力、人格的辱め、心理的虐待など)があった場合を想定して、施設長が職員・子ども双方にその原因や体罰等の内容・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行う仕組みがつけられている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止について、会議等で具体的な例を示すなどして職員に徹底し、行われていないことを確認している。また、不適切なかかわりを発見した場合は、記録し、必ず施設長に報告することが明文化されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分自身を守るための知識、具体的方法について学習する機会を設けており、不適切なかかわりの具体的な例を示して、子どもに周知し、子ども自らが訴えることができるようにしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができており、被措置児童等虐待の届出・通告があった場合には、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備・徹底されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について説明した資料を子ども等に配布、説明している。また、掲示物を掲示するなどして、子どもが自ら訴えることができるようにしている。	<input type="radio"/>

【コメント】

外部講師を招いての勉強会には、職員・子どもと共に参加している。子どもは(こころの会)で性教育だけでなく生きるための生教育についても考える機会を持ってもらえるよう取り組んでいる。職員はカンファレンスや研修会で学ぶ機会を設け虐待問題に取り組んでいる。

(5) 支援の継続性とアフターケア

①	A5 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、不安の軽減を図りながら移行期の支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの生活の連続性に関して、施設全体でその重要性を理解し、入所や退所に伴う不安を理解し受け止めるとともに、子どもの不安を軽減できるように配慮している。	<input type="radio"/>

<input type="checkbox"/> 入所した時、温かく迎えることができるよう、受け入れの準備をしている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子どもがそれまでの生活で築いてきた人間関係などを、可能な限り持続できるよう配慮している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 家庭復帰や施設変更にあたり、子どもが継続して安定した生活を送ることができるよう、支援を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

子どもの入所に関しては自然に溶け込めるように、構えずに受け入れるようにしている。家庭復帰や施設変更時は訪問したり、子供が安定した生活が継続できるように、情報の提供を密にしている。

② A6 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	b
<input type="checkbox"/> 子どものニーズを把握し、退所後の生活に向けてリービングケアの支援を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 退所後も施設に相談できる窓口(担当者)があり、支援をしていくことを伝えている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 退所者の状況の把握に努め、記録が整備されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 行政機関や福祉機関、あるいは民間団体等と連携を図りながらアフターケアを行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 本人からの連絡だけでなく、就労先、アパート等の居住先からの連絡、警察等からのトラブル発生の連絡などにも対応している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所している子どもとが交流する機会を設けている。	

【コメント】

退所後も関係機関と連携しながら出来る限りアフターケアに努めている。退所後に施設を訪れてくれる子供もいるが、退所した子どもたちと職員や入所児童との交流の機会は設けられていなく、コロナ禍の中で外部との交流も減少している。

A-2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本	第三者 評価結果
① A7 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止めている。	a
<input type="checkbox"/> 職員はさまざまな知見や経験によって培われた感性に基づいて子どもを理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子どもの生育歴を知り、そのときどきで子どもの心に何が起こっていたのかを理解している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子どもが表出する感情や言動のみを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、子どもの心に何が起こっているのかを理解しようとしている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子どもに行動上の問題等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子どもたちに職員への信頼が芽生えていることが、利用者アンケートを通じて感じられる。	<input type="radio"/>

【コメント】

職員は、子ども一人ひとりの心に寄り添い、子どもの表出する感情や言動の裏にある気持ちに寄り添えるよう努力している。職員が個々に支援するだけでなく、チームとして支援していけるように情報を共有しながら子どもの理解に努めている。

② A8 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活をいとなむことを通してなされるよう養育・支援している。	a
<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりの基本的欲求を満たすよう努めている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 基本的欲求の充足において、子どもと職員との関係性を重視している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 生活の決まりは、秩序ある生活の範囲内で子どもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。	<input type="radio"/>

<input type="checkbox"/> 子どもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々の子どもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 基本的な信頼関係を構築するために職員と子どもが個別に触れ合う時間を確保している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 夜目覚めたとき大人の存在が感じられるなど安心感に配慮している。	<input type="radio"/>

【コメント】

子ども一人ひとりの個性を大切にしながら、子どもの欲求が満たされるよう子どもとの関係性の構築に取り組んでいる。子ども一人ひとりの気持ちや状態を細かく観察しながら支援できるよう意識している。

③ A9 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切に、子ども自身が自らの生活を主体的に考え、営むことができるよう支援している。	a
<input type="checkbox"/> 快適な生活に向けての取組を職員と子どもが共に考え、自分たちで生活をつくっているという実感を持たせるとともに、施設の運営に反映させている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子どもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子どもがやらなければならないことや当然できることについては、子ども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子どもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> つまずきや失敗の体験を大切に、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。	<input type="radio"/>

【コメント】

子どもの意見を出来るだけ聞くように心がけているが、家庭内でもルールがあるように施設内でも集団生活をしていくためのルールがあるのでそれを押し付けるのではなく、理由があってこのようなルールになっていることを説明し、理解できるように話し合いを持っている。

④ A10 発達の状況に応じた学びや遊びの場を保障している。	a
<input type="checkbox"/> 施設内での養育が、年齢や発達の状況、課題等に応じたプログラムの下、実施されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 日常生活の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握し、可能な限りニーズに応えている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 学校や地域にある子どもたちの学びや遊びに関する情報を把握し、必要な情報交換ができています。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子どもたちのニーズに応えられない場合、子どもがきちんと納得できる説明がされている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 幼稚園等に通わせている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子どもたちの学びや遊びを保障するための、資源(専門機関やボランティア等)が十分に活用されている。	<input type="radio"/>

【コメント】

現在施設内保育をしている子どもはいなくみんな幼稚園に通っている。年齢に応じた図書や玩具が用意されていて、子どもたちは、年齢に応じて利用している。外の塾に通っている子どもや施設内に来ってくれる家庭教師の指導を受ける等、子どもたちは年齢に合わせて適切な学習支援を受けている。

⑤ A11 生活のいとなみを通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	a
<input type="checkbox"/> 子どもが社会生活をいとなむ上での必要な知識や技術を日常的に伝え、子どもがそれらを習得できるよう支援している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子どもと職員が十分な話し合いのもとに「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解し、生活するうえでの規範等守るべき決まりや約束を一緒に考え作っていくようにしている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 地域社会への積極的参加を図る等、社会性を習得する機会を設けている。	<input type="radio"/>

- 発達状況に応じ、身体の健康(清潔、病気、事故等)について自己管理できるよう支援している。
- 発達状況に応じて、電話の対応、ネットやSNSに関する知識などが身につくように支援している。

○
○

【コメント】

子どもたちは日々の生活の中で、食器を洗ったり食事を一緒に作る等必要な知識・技術を身に付けるための体験をしている。高学年の子どもたちは社会性を身に付けるため、アルバイト先と一緒に探すための支援を行い、アルバイトを通して社会のルール等が習得出来るように支援している。

(2) 食生活

①	A12 おいしく楽しみながら食事ができるように工夫している。	a
	<input type="checkbox"/> 楽しい雰囲気ですぐに食事できるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 食事時間が他の子どもと違う場合にも、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 食事場所は明るく楽しい雰囲気、常に清潔が保たれたもとで、職員と子ども、そして子ども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に残食の状況や子どもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつをつくる機会を設けている。	○

【コメント】

栄養バランスの取れた食事提供を行うとともに、食事アレルギーの子どもにも配慮した食事の提供が行われている。コロナ禍の中、黙食をしなければならないため、高学年の子ども達は自分の部屋で食事をしていて、みんなと一緒に食べたいとの意見も出ているが、低学年の子どもたちは食堂で食事をしていて「美味しい」とニコニコしながら食事を楽しんでいる。早くコロナが収束し、みんなで共に食事出来るようになる事を願っている。

(3) 衣生活

①	A13 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用している。	○
	<input type="checkbox"/> 汚れた時にすぐに着替えることができ、またTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。	○
	<input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。	○
	<input type="checkbox"/> 洗濯、アイロンかけ、補修等衣服の管理を子どもの見えるところで行うよう配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 衣服を通じて子どもが適切に自己表現をできるように支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 発達状況や好みに合わせて子ども自身が衣服を選択し購入できる機会を設けている。	○

【コメント】

個々の個性に合わせた清潔感のある服を選んで着ることが出来るよう、一緒に買い物に行ったり服を買う時の助言を行っている。本人の個性を大切にしながらも季節やTPOにも配慮をした衣生活を送れるように支援しているため、古着の寄付はお断りしている。

(4) 住生活

①	A14 居室等施設全体がきれいに整美され、安全、安心を感じる場所となるように子ども一人ひとりの居場所を確保している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって居心地の良い安心安全な環境とは何かを考え、積極的に環境整備を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 小規模グループでの養育を行う環境づくりに配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。	○

□食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにし、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。	○
□設備や家具什器について、汚れたり壊れたりしていない。破損箇所については必要な修繕を迅速に行っている。	○
□発達や子どもの状況に応じて日常的な清掃や大掃除を行い、居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。	○

【コメント】

部屋は一人部屋と二人部屋になっていて、木のぬくもりがあり、清潔感のある建物になっている。台所と居間を改修し子どもたちが一緒に食事を作れるようにしている。各部屋は一人ひとりの子どもたちの個性が出ており、生活感がある。子どもによっては日常的に掃除することが苦手な子もいるが、職員が声をかけながら部屋の清潔に心がけている。

(5) 健康と安全

① A15 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。	a
□子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、定期的に子どもの健康管理に努めている。	○
□健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察し、対応している。	○
□受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。服薬管理の必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。	○
□職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。	○

【コメント】

常勤の看護師の配置により、日々子どもたちの健康管理に努めている。職員は日々子どもたちの健康状態を把握するとともに、必要に応じて看護師を中心に学習会などを開き医療的な面も学習し、子どもたちが健やかに暮らせるよう取り組んでいる。医療機関との連携も密に行っており、通院なども看護師が付き添って行っている。

(6) 性に関する教育

① A16 子どもの年齢・発達の状況に応じて、他者の性を尊重する心を育てよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	a
□他者の性を尊重し、年齢相応で健全な他者とのつき合いができるよう配慮している。	○
□性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に答えている。	○
□性についての正しい知識、関心が持てるよう、年齢、発達の状況に応じたカリキュラムを用意し、活用している。	○
□必要に応じて外部講師を招く等して、性をめぐる諸課題への支援や、学習会などを職員や子どもに対して実施している。	○

【コメント】

「こころの会」や「性教育委員会」で子どもたちの年齢に応じ、性についての正しい知識が持てるように学習している。委員会は月1回開催され看護師や臨床心理士も参加している。子どもだけ、職員だけ、子どもと職員一緒に学習する機会が設けられており、日々の支援に活かされている。

(7) 行動上の問題及び問題状況への対応

① A17 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	a
□施設が、行動上の問題があった子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲の子どもの安全を図る配慮がなされている。	○
□施設の日々の生活が持続的に安定したものとなっていることは、子どもの行動上の問題の軽減に寄与している。また子どもの行動上の問題が起きた時も、その都度、問題の要因を十分に分析して、施設全体で立て直そうと努力している。	○
□不適切な行動を問題とし、人格を否定しないことに配慮をしている。職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。暴力を受けた職員へ無力感等への配慮も行っている。	○
□くり返し児童相談所、専門医療機関、警察等と協議を重ね、事態改善の方策を見つけて出そうと努力している。	○

【コメント】

以前7時間も暴れた子どもがいて、職員が心的被害を受けたことがあったが、児童相談所と相談し連携して、解決に至ったケースがある。不適切な行動を起こす子どもに対しても、職員は常に冷静に対応するよう心掛け、職員間で連携しながら対応に当たっている。また職員研修も行い、子どもに対する適切な支援を考えている。

②	A18 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	a
	□問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方について定期的に点検を行っており、不備や十分でない点は改善を行っている。	○
	□生活グループの構成には、子ども同士の関係性、年齢、障害などへの配慮の必要性等に配慮している。	○
	□課題のある子ども、入所間もない子どもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。	○
	□大人(職員)相互の信頼関係が保たれ、子どもがそれを感じ取れるようになっている。子ども間での暴力やいじめが発覚した場合には、施設長が中心になり、全職員が一丸となって適切な対応ができるような体制になっている。	○
	□暴力やいじめに対する対応が施設だけでは困難と判断した場合には、児童相談所や他機関等の協力を得ながら対応している。	○
	□子ども間の性的加害・被害を把握し適切に対応している。	○

【コメント】

発達障がいの子どものも多くなってきており、自分の気持ちを表現できにくい等で、暴力等が発生することもあるが、職員間で情報を共有しながら発生予防に取り組んでいる。また、必要に応じて児童相談所をはじめ関係機関との連携の下、適切な対応ができるよう取り組んでいる。

(8) 心理的ケア

①	A19 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	a
	□心理的ケアを必要とする子どもについては、自立支援計画に基づき心理支援プログラムが策定されている。	○
	□施設における職員間の連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中で有効に組み込まれている。	○
	□心理的ケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが行われている。	○
	□職員が必要に応じて外部の心理の専門家からスーパービジョンを受ける体制が整っている。	○
	□心理療法を行うことができる有資格者を配置し、心理療法を実施するスペースを確保している。	○
	□児童相談所と連携し、対象となる子どもの保護者等へ定期的な助言・援助を行っている。	○

【コメント】

常勤の臨床心理士の配置もされていて、日々の生活の中で職員が迷うことはすぐに相談できる体制が確立されている。心理療法をする部屋が確保され、箱庭療法等の専門的な療法も取り入れながら子どもの心に合わせて支援が出来る。児童相談所や精神科医の助言も受けながら子どもたちの心理的支援に取り組んでいる。

(9) 学習・進学支援、進路支援等

①	A20 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	a
	□静かに落ち着いて勉強できるようにその時の本人の希望に沿えるような個別スペースや学習室を用意するなど、学習のための環境づくりの配慮をし、学習習慣が身につくよう援助している。	○
	□学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個別的な学習支援を行っている。一人ひとりの必要に応じて、学習ボランティアや家庭教師、地域の学習塾等を活用する機会を提供している。	○
	□学力が低い子どもについては、基礎学力の回復に努める支援をしている。	○
	□忘れ物や宿題の未提出について把握し、子どもに応じた支援をしている。	○
	□障害のある子どものために、通級による指導や特別支援学級、特別支援学校等への通学を支援している。	○

【コメント】

個別学習スペースや学習室が確保されており、その学年に応じた学習指導が行われている。国立大を受験する子どもや予備校に通っている子どももいる等その子に合った学習支援を行っている。4月に小学校に入った子どもが学校に慣れにくかったので、職員が1日2回学校に出向き子どものフォローに3か月間入った事例もある。学力の低い子どもに対しても、一人ひとりのニーズや発達段階に沿って支援できるよう取組んでいる。

②	A21 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 進路について自己決定ができるよう進路選択に必要な資料を収集し、子どもに判断材料を提供し、子どもと十分に話し合っている。	○
	<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、本人、親、学校、児童相談所の意見を十分聞き、自立支援計画に載せ、各機関と連携し支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 就学者自立生活支援事業、社会的養護自立支援事業、身元保証人確保対策事業、奨学金など、進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報提供をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応する体制ができており、対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 学校を中退したり、不登校となった子どもへの支援のなかで、就労(支援)しながら施設入所を継続することをもって社会経験を積めるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 高校卒業後も進学を希望する子どものために、資金面、生活面、精神的面など、進学の実現に向けて支援、情報提供をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 高校卒業して進学あるいは就職した子どもであっても、不安定な生活が予想される場合は、必要に応じて措置延長を利用して支援を継続している。	○

【コメント】

子どもの進路については、本人の意向を重視しながら親、学校、児童相談所等の意見を聞きながら支援している。就職したが一人生活に不安を抱えている子どもに対して、4月から12月まで措置延長をしたケースや、浪人のため1年間措置延長をしたケースなど、生活が不安定にならないように取組んでいる。

③	A22 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、社会の仕組みやルールなど、自分の行為に対する責任について話あっている。	○
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、金銭管理や生活スキル、メンタル面の支援など、子どもの自立支援に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 職場実習の効果を高めるため、協力事業主等と連携している。	○
	<input type="checkbox"/> アルバイトや、各種の資格取得を積極的に奨励している。	○

【コメント】

職員は子どもたちと一緒にアルバイト先を探したり、積極的な取り組みを心がけている。アルバイトをしている子どもは、携帯電話を持つことが出来るルールになっているが、自分の行為に責任を持って行動することの学びにつながっている。社会の仕組みやルールなどを一緒に学ぶ機会を持つ等、子どもが目標をもって主体的に取り組めるよう配慮している。

(10) 施設と家族との信頼関係づくり

①	A23 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設の相談窓口および支援方針について家族に説明し、家族と施設、児童相談所が子どもの成長をともに考えることを伝え、家族と信頼関係を構築できるよう図っている。	○
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係調整、相談に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅などを取り入れ子どもと家族の継続的な関係づくりに積極的に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 外出、一時帰宅後の子どもの様子を注意深く観察し、不適切なかわりの発見に努め、さらに保護者等による「不当に妨げる行為」に対して適切な対応を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもに関係する学校、地域、施設等の行事予定や情報を家族に随時知らせ、必要に応じて保護者等にも行事への参加や協力を得ている。	○

【コメント】

児童相談所と毎月カンファレンスを開催し、子どもの状況の共有や家庭関係の調整等に取り組んでいる。子どもに対する退園支援について、市の子育て支援の関係課と連携して支援を行っている。

(11) 親子関係の再構築支援

①	A24 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員を中心に、ケースの見立て、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みを行うなど、再構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている。	
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅、あるいは家庭訪問、施設における親子生活訓練室の活用や家族療法事業の実施などを通して、家族との関係の継続、修復、養育力の向上などに取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 児童相談所等の関係機関と密接に協議し連携を図って家族支援の取組を行っている。	○

【コメント】

面会、一時帰宅、外出などの支援にも積極的に取り組んでおり、保護者が施設に泊り、子どもと一緒に過ごすことが出来るような取組も行われている。現在、小6の子どもが3月に家族に引き取られる事案に向けて話を進める等施設が中心となって退所に向けて支援している。親子関係の構築に向けて支援方針までは出来ていないが、現在、やっていく方向性で徐々に取組つつある。